



第15回村上記念「胃と腸」賞 贈呈式開催される

受賞は工藤進英氏ら

第15回村上記念「胃と腸」賞は、工藤進英・他(秋田赤十字病院外科)「平坦・陥凹型早期大腸癌の内視鏡診断と治療—微小癌の内視鏡像を中心に」(第24巻3号掲載)に贈られた。本賞は昨年度「胃と腸」誌に掲載された全論文を審査対象に最優秀論文を編集委員会で選ぶものである。

贈呈式はさる7月18日、早期胃癌研究会7月例会(エーザイ本社ホール・東京)で行われた。例会幹事の福地創太郎氏(虎の門病院副院長)より受賞論文が紹介された後、受賞者を代表して工藤進英氏が登壇、早期胃癌研究会代表の白壁彦夫氏(早胃検理事長)より賞状と賞牌が、また金原 優医学書院社長より賞金を手渡された。

続いて、選考委員を代表して牛尾恭輔氏(国立がんセンター医長)が、“本賞は①ノイエスがあるか、②写真が美麗であるなど、本誌独特の形式を備えているか、③臨床への貢献度はどうか、といった選考基準から選ばれるが、本論文はそれらすべてを満たす出色のものであり、われわれの病変を見る目を変えるインパクトがある”と述べ、更に“この成果が、木から育ち林となり森となるように”と結んだ。

最後に、受賞者の工藤氏は、恩師の武藤輝一新潟大教授、また内視鏡による形態学への目を開かせてくれた新潟大病理の渡辺英伸教授への感謝とともに、“まだまだ研究は、山の麓に着いたばかりの感じ”と今後の研究への意欲を述べた。

